

## 国道 56 号中村宿毛道路

国道 56 号中村宿毛道路（四万十市古津賀～宿毛市和田間 23.2km）は、高速道路ネットワークである四国 8 の字ネットワークを構成する自動車専用道路（20.7km）と四万十市街地の交通混雑を緩和する一般道路（2.5km）からなっています。四万十市～宿毛市間の円滑な交通確保と道路冠水などによる通行止めの解消を目的とした事業です。

この区間では度重なる路面冠水による交通途絶と中村市（現四万十市）～宿毛市間の交通混雑などを解消するため、昭和 48 年度より中村バイパス（13.1km）の調査が行われ、昭和 51 年度に事業化されました。中村バイパスは、昭和 62 年の第四次全国総合開発計画により、高規格幹線道路の一部を構成する自動車専用道路として編入され、さらに宿毛延伸部（7.6km）も平成元年度に事業化されました。これにより、中村バイパスと中村宿毛道路（宿毛延伸部）を合わせて、中村宿毛道路（自動車専用道路部 20.7km）の事業が進められてきました。

一般道路部は平成 14 年 8 月～平成 22 年 3 月の間に 4 車線化が行われ、自動車専用部は平成 14 年 9 月に間 IC～平田 IC が、平成 21 年 3 月に四万十 IC～間 IC がそれぞれ開通し、令和 2 年 7 月の平田 IC～宿毛和田 IC の開通により中村宿毛道路が全線開通しました。途中、四万十川を渡河する新四万十川橋（橋長 697m）については、有識者や地元代表などからなる景観検討委員会が設置されて検討が行われ、橋の向こうの景色が見えるようにしてほしい、できるだけ橋脚を少なくしてほしいなどの意見を踏まえて、四万十川にふさわしい景観が醸し出されるように配慮がなされています。

中村宿毛道路の全線開通により、四万十市～宿毛市間の所要時間は整備前の約 43 分から約 30 分へと約 13 分短縮され、中村宿毛道路（平田 IC～宿毛和田 IC）と並行する国道 56 号の断面交通量では約 4 割が中村宿毛道路に転換し、中村宿毛道路及び国道 56 号並行区間の死傷事故件数は整備前と比べて約 9 割減少しました。また、中村宿毛道路は、幡多地域の中核病院である高知県立幡多けんみん病院（宿毛市）へのアクセスを向上させるとともに、例えば令和 3 年 7 月の豪雨で宿毛市平田町の国道 56 号が通行止めになった時にも、中村宿毛道路が代替道路として機能するなど、地域住民の安心感の向上にも役立っています。産業面では、中村宿毛道路の整備に伴い、平田 IC に隣接して整備された高知西南中核工業団地（工場用地 41.1ha）には企業進出が増加し、雇用の創出に貢献する一方、輸送の定時性が向上して幡多地域の農水産物の販路拡大を支援したり、観光地へのアクセス向上により幡多地域の観光振興にも貢献しています。今後も中村宿毛道路を活かした地域の取り組みにより、一層の地域の活性化が期待されています。

<参考文献：四国地方整備局中村河川国道事務所編「中村工事事務所 70 年のあゆみ」2000 年、四国地方整備局事業評価監視委員会資料、国土交通省中村河川国道事務所 HP など>



四万十川を渡る新四万十川橋



高知西南中核工業団地から  
中村宿毛道路をのぞむ



(地理院地図に加筆)